

報道機関各位

令和 7 年 10 月 31 日

放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰委員会

令和 7 年度放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰

受賞者発表及び表彰式のお知らせ

1. 令和 7 年度放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰受賞者

今年度新たに創設した表彰制度で、別添のとおり放射性同位元素等の安全管理又は環境放射能対策の向上のために尽力して優れた成果を上げた 14 名の受賞が決定いたしました。

- ・ 放射線安全管理功労者 (11 名)
- ・ 環境放射能対策功労者 (3 名)

受賞者には、原子力規制委員会から原子力規制委員会委員長賞が贈られます。

2. 表彰式

日時：令和 7 年 11 月 10 日（月） 10：30～11：10

場所：原子力規制委員会 13 階 BCD 会議室

（東京都港区六本木 1 丁目 9－9 六本木ファーストビル）

注意事項

- ・ 表彰式の取材をご希望の方は、11 月 5 日（水）17:00 までに氏名、所属、連絡先（電話番号・メールアドレス）、持ち込み機材（ビデオカメラ、スチールカメラ／ペン／その他）を記載の上、以下の申込み先まで電子メールにて、ご登録願います。件名は、「令和 7 年度放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰 取材依頼」として下さい。

また、当日会場で受賞者にインタビューを希望する場合は、〇〇さんにインタビュー希望と必ず明示してください。

希望者多数の場合は抽選とします。

申込・問合せ先：

放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰委員会事務局

（公財）原子力安全技術センター 企画総務部 松戸、阿南

Email:kikaku@nustec.or.jp tel:03-3814-7482

- ・ 取材は、主催者プレス担当者の指示する場所（プレスエリア）で行ってください。
- ・ 当日は、免許証等の身分を証明できるものをご提示ください。事前登録のない方は取材できませんのでご注意ください。また、自社腕章を着用していただくようお願いいたします。
- ・ 会場内への入室は、表彰式開始 30 分前からご案内します。
- ・ 会場内では私語を控え、表彰式の進行を妨げないようにご注意ください。
- ・ その他主催者プレス担当者の指示に従うようお願いいたします。指示に従っていただけない場合には、退室いただくことがございます。
- ・ ご登録いただいた個人情報は、表彰式の適切な運営のために利用し、その他の目的には利用しません。

○取材可能時間【10時30分～11時35分】

当日の進行（予定）

（1）表彰式 10：30～11：10

①開 式

②放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰

主催者代表 挨拶（原子力安全技術センター 石田会長）

③祝辞（原子力規制委員会 山中委員長）

④原子力規制委員会委員長賞 表彰状 授与（原子力規制委員会 山中委員長）

表彰盾 授与（放射線障害防止中央協議会 上薮会長）

⑤受賞者 代表 挨拶（放射線安全管理功労者）

⑥受賞者 代表 挨拶（環境放射能対策功労者）

⑦閉 式

（2）歓談 11：10～11：35

以上

各位

令和7年10月31日
放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰委員会

令和7年度放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰
受賞者発表及び表彰式について

「放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰」は、(公財)原子力安全技術センター、(公社)日本アイソトープ協会、(公財)日本分析センター及び放射線障害防止中央協議会が主催し、原子力規制委員会の後援を得て、放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰委員会を設置し、実施するものです。

本表彰は、放射性同位元素等の安全管理又は環境放射能対策の向上のために尽力して優れた成果を上げた個人を表彰することにより、関係者の更なる意欲の向上と安全確保に対する国民の理解の増進に資することを目的としています。受賞者には、原子力規制委員会から原子力規制委員会委員長賞が贈られます。

本年度は、次の各区分について、別紙のとおり14名の受賞が決定いたしました。

- ・ 放射線安全管理功労者 (11名)
- ・ 環境放射能対策功労者 (3名)

なお、表彰式を以下のとおり挙行いたします。本表彰式は、関係者のみで執り行いますので、関係者以外は傍聴できません。

日時：令和7年11月10日(月) 10:30～11:10

場所：原子力規制委員会 13階会議室

(東京都港区六本木1丁目9-9 六本木ファーストビル)

問い合わせ先：(公財)原子力安全技術センター
企画総務部 松戸、阿南
電話番号 03-3814-7482

令和7年度 放射線安全管理功労・環境放射能対策功労者

放射線安全功労者（五十音順）

氏名	所属	業績
いぬい えみこ 乾 恵美子	国立大学法人山形大学	山形大学の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。シニア、小中学生対象の講義実習等をととして大学内外の放射線教育の推進に貢献した。また、福島第一原子力発電所事故後の山形県内の土壌調査等地域活動をととして、放射線安全の啓発活動に貢献した。
おおかわら けんいち 大河原 賢一	製薬放射線コンファレンス	塩野義製薬株式会社の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。また、製薬放射線コンファレンスの世話人代表として、製薬業界における放射線安全管理のあり方の検討、協力体制の構築、人材育成に貢献した。
かまだ としみつ 釜田 敏光	ポニー工業株式会社	ポニー工業株式会社の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。放射線安全規制検討会の委員、非破壊検査工業会の活動等をととして、放射線を用いた非破壊検査における標準化の確立等、非破壊検査における放射線安全管理に貢献した。
かわの たかお 河野 孝央	株式会社日本遮蔽技研	筑波大学及び核融合科学研究所の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。また、自然放射性物質を使用した放射線源を開発し、従事者教育とともに一般公衆への啓発活動に貢献した。福島第一原子力発電所事故後は、地域住民への放射線計測技術の伝授等により地域活動に貢献した。
はぎわら まさゆき 萩原 雅之	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構	高エネルギー加速器研究機構及び量子科学技術研究開発機構の放射線安全管理業務に従事し、安全確保に尽力した。国内外の放射光施設における実績を体系化し、安全管理システムの改良等により、実験ホールを非放射線管理区域に設定する等、放射光施設の安全管理体制の構築に貢献した。

ひがき しょうご 桧垣 正吾	国立大学法人東京大学	東京大学の放射線安全管理業務に従事し、安全確保に尽力した。さらに、学内だけではなく、大学等放射線施設協議会事務局代表として全国の国公立大学等の放射線安全確保に貢献した。また、日本アイソトープ協会の講習会講師を務める等、放射線安全管理教育をはじめ、幅広く放射線安全の発展に貢献した。
ふくし まさひろ 福士 政広	つくば国際大学	東京都立大学の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。教育機関の教員として多年に亘り多くの診療放射線技師を輩出し、人材育成に貢献した。また、日本医学物理学会防護委員会、日本保健物理学会等の学会活動及び荒川区等への放射線安全啓発活動により、放射線安全管理の発展に貢献した。
まがた やすひろ 間賀田 泰寛	国立大学法人浜松医科大学	京都大学及び浜松医科大学の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。PET 施設の安全管理等に従事し、核医学における放射性医薬品の適正利用、安全管理、従事者教育等に貢献した。
ますもと かずよし 榊本 和義	大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構	東京大学原子核研究所及び高エネルギー加速器研究機構の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。また、学会活動等をとおして、加速器による放射化物の安全基準の策定等、加速器の安全管理体制の構築に貢献した。
まつだ なおき 松田 尚樹	国立大学法人長崎大学	長崎大学の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。また、学内外における安全管理教育に努め、人材育成に貢献した。さらに、福島第一原子力発電所事故直後の原子力災害対策本部医療班としての活動等をとおして地域活動に貢献するとともに、放射線審議会委員として、国内の放射線安全管理体制の確立に貢献した。
みやけ ひとし 三宅 均	大学共同利用機関法人自然科学研究機構 核融合科学研究所	核融合科学研究所の放射線安全管理業務に多年に亘り従事し、安全確保に尽力した。核融合施設における放射線安全管理体制の構築に貢献した。また、大規模学術フロンティア事業の指定を受けた重水素実験における安全確保に尽力した。

(計 11 名)

環境放射能対策功労者（五十音順）

氏名	所属	業績
きむら ひでき 木村 秀樹	国立大学法人 弘前大学	原子力施設の集中する青森県の施設周辺の環境放射線モニタリングに係る業務に多年に亘り従事し、青森県における環境放射能対策及び人材育成等に尽力した。また、国等の委員を数多く務め、原子力災害対策指針策定の検討を行う等、その経験及び知見を活かして環境放射能対策に貢献した。
たがみ けいこ 田上 恵子	国立研究開発 法人量子科学 技術研究開発 機構	環境放射能に係る調査研究に多年に亘り従事し、環境試料中の長半減期放射性核種の分析や挙動解明の論文を多数著し優れた成果を挙げた。また、国及び関連学会等の委員を数多く務め、福島第一原子力発電所事故後の食品中放射性物質の基準値策定に関わる等、その経験及び知見を活かして環境放射能対策に貢献した。
つかだ ひろふみ 塚田 祥文	国立大学法人 福島大学	環境放射能分析及び調査研究に多年に亘り従事し、福島第一原子力発電所事故後は、福島県を拠点として農業対策、食物摂取による内部被ばく線量評価、除染検証、教育等に貢献した。また、国及び地方自治体等の委員を数多く務め、環境放射能研究等に関する国内外での講演も多く行い普及啓発や人材育成につなげる等、その経験及び知見を活かして環境放射能対策に貢献した。

（計 3 名）